



気がつくと今年も残り2ヶ月。1年があっという間に過ぎ行くような、慌ただしい日常である。法制化についても、「与党協同労働の法制化に関するワーキングチーム」の実務者会議が11月7日に開催され、骨子案をもとに要綱案作成が進み、目的規定や組合員比率など論点は概ね議論され尽くした。今後要綱案がまとまり、与党政策責任者会議等で確認されると、広く議論される段階に入る。

法制化と相まって連合会への加入依頼も増えており、「電気管理協会ワーカーズ」という電気管理技術者による新たなワーカーズが作られ、加入申請が来ている。派遣会社で働いていた技術者自らが話し合い、経営も考え、労働し、地域の必要に応えるよい仕事を目指す。センター事業団が担う指定管理者施設との連携なども模索する。

この間加盟した「創造集団440Hz」とは様々なパンフレット作成やデザイン、さらにはホームページの作成まで連携が進んでいる。先日は母体となるシュレー大学の「世界を自分に取り戻す」研究発表会にも参加し、自分の困難と向き合い研究し、周りとの対話することで課題を克服していく取り組みは、協同労働の仲間づくりとの親和性を強く感じた。

またファイナンシャルプランナーの

ワーカーズ「しあわせファクトリー」とは、ワーカーズコープの既存の地域福祉事業所と連携し、介護保険制度では対応できない遺言作成支援、不動産活用支援、生前葬儀支援など高齢者の生活を支える上で必要な仕事おこしを協同で取り組んでいる。加盟組織には「ユニオン建設労協」という住宅改修などを手掛ける団体もあり、今後多様な地域課題に応えるワーカーズが生まれ、地域で連携し、住民の生活を支え合うような取り組みに繋がっていききたい。

11月2日-3日に開催された全国代表者会議では、衆議院厚生労働委員会高木美智代理事や厚生労働省勤労者生活課勤労者福祉事業室外山恵美子室長、協同組合振興研究議員連盟小山展弘事務局より挨拶を頂き、また連帯挨拶には釜ヶ崎支援機構山田實理事長、べてるの家向谷地生良理事、共同連斉藤縣三事務局長より各団体の取り組みや法制化への期待も延べられ、さらに労働者協同組合に関心のある団体・自治体から参加。参加した組合員も法制化間近の現状や協同労働の客観的な評価を聞き、高揚感が高まると同時に、会議を通じて仲間や地域との協同を改めて進めていく大事さを実感し、連合会としてもこれらの動きを一層促進していきたい。